

コール・ヴァフナ 40 回記念演奏会の開催、誠におめでとうございます。

本来なら演奏会場に駆けつけて演奏を拝聴の上、お祝いを述べたいところですが、諸事情により叶いません。素晴らしい演奏会にならんことをご祈念いたします。

小千谷公演は、1994 年～1997 年、小生が小千谷青年会議所在籍時代に 3 回、そして 2009 年、2012 年のロータリークラブ在籍時に 2 回、合計 5 回開催いたしました。また 1996 年の小出郷文化会館柿落とし「第九演奏会」にも大勢のメンバーからエキストラメンバーとしてご参加いただきました。

小千谷公演開催のきっかけは、別項にある「第ゼロ回」（1993 年）にあります。よって、ここでは詳細には触れませんが、この時は予算が無い中、当時のメンバーが交通費自己負担で駆けつけてくださったという、その心意気には 30 数年を経過した現在も本当にありがたかったと心より感謝している次第です。

それ以降の数回の正式開催に関しては、各回にそれぞれの思い出があり、書き尽くすことは到底できませんが、いくつか印象深かった事を箇条書きでピックアップさせていただきます。

1. 動機

- ・再び、川合良一先生の指揮で歌いたい。
- ・メンバーと打ち上げでうまい酒を酌み交わしたい。

この 2 点に尽きたと思います。94 年の第一回の際、多田武「富士山」の入場の際の川合先生の満面の笑みは 30 数年を経た現在も小生の脳裏にこびりついて離れません。そして小生の念願だった「富士山」をトップテールとして、ペコさん、大平君、タコさん等キラ星のようなメンバーと共に歌えた感動も昨日のここのように覚えています。

打ち上げは言うまでもなく、毎回本当に楽しく、学生時代にタイムスリップした感覚でした。特に小山君、木下君という芸達者達の余興には毎回腹を抱えて大爆笑でした。

2. 集客方法

- ・小千谷市内 6 中学校訪問の上、各校長と面談、ご来場のお願い

小生中学校時代の担任、数学 美術教師らが出世されて校長になられており、快く訪問を受け入れてくださり、趣旨もご理解いただき、演奏会当日は各校数名の関係者同伴でご来場いただきました。

- ・小千谷市内合唱団 2 団体への賛助出演依頼及びチケット販売依頼

当時小千谷で活動中の小千谷混声合唱団（後年解散）、女性合唱団コール R（現在も活動中）の練習会場を訪ね、賛助出演の依頼とチケット販売をお願いしました。賛助出演いただければ、メンバーのご家族・知り合いのご来場が見込めると思ったからです。

各団体訪問当初はいずれも乗り気薄で、特にコール R の指導者 新野一枝先生からは「JC（青年会議所）の

言うことは信用しない！」とのきついお言葉をいただきました。先生は当時の JC は口ばかりで、何も行動しないというイメージをお持ちでした。

しかしながら、2度3度と訪問を重ね、小生が大学時代混声合唱部に所属し、主に外政の仕事をやっていたこと等をお話すると少しずつ態度が軟化し始め、最後はコール R でチケット販売 100 枚超えと、大変なご協力をいただきました。この新野先生からは、その後の小千谷公演でも毎回大きな貢献をいただきました。

新野先生ご自身は武蔵野音大声楽家出身で、小千谷市でも 2～3 年に 1 回、コール R の発表も兼ねてソロリサイタルを開催されております。時期の記憶が定かではないのですが、2009 年 4 月だったでしょうか、そのリサイタルにヴァフナ数名を自費で招待していただき、カルメン「ハバネラ」のバックコーラスを務め、小ステージも設けてくださいました。（詳細はシューマン、小山君あたりに聞いてください）このコール R は年々技術を磨き、最近ではママさんコーラスコンクールの強豪となり、毎年県大会を勝ち抜き、上の大会に進出されております。

3. チケット販売その他

市民会館の席数は 500 弱ですが、付き合いで購入くださる方も多いため、最低 600 以上売れば、7 割で 420 人程度の集客を見込んでおりました。

第 1 回公演は、小生は JC 文化事業委員会委員長として委員会メンバー各自に販売ノルマを課し、毎週進捗チェックをするという、まるで昭和のどこかの会社の営業会議の様相を呈していました。その時の合言葉が「できない理由は言わない、とにかくチケットを常に携行し、常在戦場で臨め。」と発破をかけまくっていました。

今の時代では、間違いなくパワハラで訴えられそうですね。その際の小生のノルマは 100 枚で、その数字はその後毎回お約束となりましたが、お陰様ですべて達成することができました。広告スポンサー獲得も貴重な資金源となり、一時期小生のことを「酒を売らないで歌のチケットと広告取りばかりしている。」と揶揄する方がいましたが、まさにその通りの毎日でした。ただ、この際の経験は社業にも大変役立ち、その後の社業発展に大きな力となりました。こうした活動の結果第 1 回公演の来客数は 430 名程度の集客を達成し、市民会館はほぼ満員に近い形になりました。

第 2 回公演以降も毎回 400 人前後の動員は達成でき、この点に関してはヴァフナメンバーの方々からも大勢の観客の前で演奏出来ることを大変喜んでいただきました。

4. 小千谷公演が小千谷市音楽活動にもたらしたもの

第 2 回公演の盛況振りに気を良くし小千谷 JC は住民参加型での「第九演奏会」を提案。しかしながら市民会館では会場のキャパシティやステージの狭さ等の理由で一旦難しいとの判断が下ります。しかし翌 96 年隣町の魚沼市にオープン予定の「小出郷文化会館」（当時）の柿落としイベントとして日の目を見ることができました。

この柿落としの貴重な情報を提供いただいたのが、前述の女性合唱団コール R の新野一枝先生でした。我々小千谷 JC はこの情報を得て、地元である小出 JC に合同事業として「第九演奏会」を提案、柿落とし企画として採用されました。

その後小千谷市では「小千谷第九合唱団」魚沼市では「魚沼混声合唱団」をそれぞれ結成、約1年に渡る練習期間を経て96年6月に指揮者大町陽一郎氏、オケには新交響楽団を招聘し、演奏会は大成功裡に終了しました。

演奏会終了後、小千谷第九合唱団のメンバーの多くから、「このまま終わりにたくない。合唱団を継続してほしい。」という声があがりました。そこでまた再びJCが主体となり、新たな合唱団、混声合唱団OSC（オヂヤスピリチュアルコーラス）を結成し、活動を開始しました。初代団長は行きがかり上、不詳小生が務めました。

このOSCはこの後、今日に至るまで活動を継続し、来年設立30周年の記念すべき年を迎えます。小生は、諸事情により2000年代に入り退団いたしましたが、昨年復帰し、現在は会費要員として末席を汚しております。

元々は第0回の商工会議所で開催したミニコンサート、そしてその後の市民会館での小千谷公演が導火線となり、小出郷文化会館柿落とし(第九演奏会)、さらには新しい合唱団誕生にまで至った訳です。本当にすごい影響力だと痛感しています。

5. 小千谷合唱フェスティバル（1997年）第3回公演に関して

この年、小生は小千谷青年会議所理事長に就任しました。そこで数年に渡った合唱事業の集大成として企画したのが「小千谷合唱フェスティバル」でした。ヴァフナをメインゲストとして招聘し、新設のOSCも含めた市内3団体を集め賑々しく最後を飾ろうということで、事前準備とりわけチケット販売には力を入れました。

JCの担当委員会（文化事業委員会）の委員長には入会してまだ2年程度の新人宮崎悦男君を抜擢し、年初より毎週のように小生も毎回出席した上で委員会を開催。チケット販売、広告スポンサー集め進捗チェックを徹底して繰り返しました。またしても昭和の営業会議の再現でした。その結果、本番は第1回公演を上回る集客となり、ほぼ満員の観衆を動員出来ました。この宮崎委員長とは本番打ち上げ後も延々と拙宅で明け方まで飲み明かし、成功を喜び合いました。

ちなみにこの宮崎君は後年新潟県議会議員を2期務めた後小千谷市長選挙に出馬、三つ巴の選挙戦に圧勝し、現在2期目の任期中です。当時よりたいへん熱意のある若手で、いろいろなことで一緒に仕事をしました。たまに市長とお会いする機会もありますが、「あのJCでの経験は本当に役に立った。熱意は磁石のように人をひきつける場면을何度も経験した。」とありがたいお言葉をいただいております。

6. 第4回（2009年）公演に関して

第3回公演から12年の時を経て再び開催した2009年第4回小千谷公演。小生もJCを卒業し、50歳となり、小千谷ロータリークラブの会員となっております。当時ロータリークラブでは小千谷ロータリー混声合唱クラブなるものを組織し、市内各地の老健施設に「唱歌の出前」なる企画を実施し、15分程度懐かしい唱歌や演歌を披露していました。小生もそのメンバーでした。指導者は何と前述のコールR指導者新野一枝先生、まさにヴァフナ以来のご縁でした。

ある日その合唱クラブの飲み会で、「どこかでロータリー合唱クラブも大勢の観客の前で歌ってみたい。久方ぶりにヴァフナを招聘したらどう。」みたいな話になり、当時ロータリーではまだ若手の小生にノーという返事

はあり得ず、稲垣団長（当時）にお願いした次第です。

2009 年で何といっても思い出深いのは、小生が中学時代からの熱狂的ファンであつた小田和正さんの楽曲「この道を行く」をメンバーと共に歌えたことでした。この曲は小田さんが毎年暮れに放送していた TBS 系音楽特番「クリスマスの約束 2007」などで披露された、小田さんが早稲田大学グリークラブのために書き下ろした合唱曲で、いたく気に入りは是非歌ってみたいと思っていました。

しかし、著作権・許諾の問題もあり難しいと思っていましたが、ご縁があつて小田さんサイドから演奏許可をいただけて楽譜もお送りいただき、念願の曲を皆で歌うことができました。いまでも小田さん始め関係者の皆さんには感謝の気持ちで一杯です。当日の演奏は、ソロパートをバリトン小山君が朗々と歌い、同期として感慨もひとしおでした。

7. 第 5 回（2012 年）公演に関して

2012 年第 5 回公演は、「小千谷ロータリークラブ創立 50 周年記念事業」として開催いたしました。この際のヴァフナ メインステージでは、小千谷市出身の世界的詩人 西脇順三郎の「アムバルワリア」（千原英喜作曲）を小千谷市初演で演奏いただき、谷井市長（当時）始め市の「西脇順三郎を偲ぶ会」のメンバーの方達をご招待し、喜んでいただきました。

この後の懇親会では一次会を「割烹東忠」で開催し、谷井市長（当時）からもご参加いただきました。二次会は「ナイトバブ司」というかなり大きなお店を借り切って、ヴァフナ、ロータリークラブメンバーはもちろん、市内合唱 3 団体からも大勢参加いただき、大カラオケ大会となりました。この時の写真も各メンバー入り乱れて満面の笑みの集合写真が別項の 2012 年のギャラリーに掲載されています。この時も小山君の「ヨーデル」は大うけでした。このロータリー主催による 2 度の公演は、翌日に小千谷市内観光も企画し、皆さんから喜んでいただきました。

8. 終わりに（改めて思うこと）

この一連の「ヴァフナ小千谷公演」は間違いなく、小生の人生の中で輝かしい思い出として終生残ると思います。企画当初は不安ばかりで、外政・プログラム・チラシ作成・タイムテーブル等一人で何役もこなしておりましたが、活動する中で次から次へと良き理解者協力者が現れ、お陰で大きなコンサートを何回か実現できました。

お忙しい中、正式な演奏会にはすべてご出演いただいた川合先生、武部先生には、この場をお借りし改めて心より感謝申し上げます。両先生のパフォーマンスは小千谷市在住の音楽関係者には斬新かつ刺激的であったと思います。

ヴァフナの演奏も既存団体のメンバーには刺激的で、後の他団体の成長の一助となったことと確信しています。また交渉窓口として関わった 3 人の団長、本田さん、清水君、稲垣君にも大変お世話になりました。皆さんご多忙の中、頻繁な連絡によくご対応いただきました。

結びにヴァフナの益々のご繁栄をお祈りします。いつかまた小千谷公演が出来たらいいですね！